

令和4年度 事務事業評価シート（1）

[令和3年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	平和関連推進事業			事業番号	007-046
担当部署名	市民人権	局	人権	部	人権推進課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	—	施策	—
		寄与するKPI	無	取組の方向性	—	—	—
	堺市SDGs 未来都市 計画	施策との関連	有・無	指標名	—	目標値	—
		寄与するKPI	無	現状値	—	ターゲット	—
		施策との関連	有・無	指標名	—	—	—
		寄与するKPI	無	現状値	—	目標値	—

2	関連計画	堺市人権施策推進計画【第2期：平成27年度から令和3年度、第3期：令和4年度から令和8年度】
3	事業開始年度	— 年度
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律、堺市立平和と人権資料館条例、堺市立平和と人権資料館条例施行規則、堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、出先機関（平和と人権資料館）
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	全市民
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	戦争の悲惨さ、平和の尊さ、人権尊重の大切さを訴え、次世代に伝えることで、平和と人権を尊重する都市の実現を図る。国際平和に対する理解や認識を深め、国際貢献、国際協力活動を推進することを通じて、地方自治体として世界平和の実現に向けて貢献する。
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など ※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ○平和と人権資料館運営 <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示：人権、環境、平和ゾーンで構成。さまざまな機器を使い、体感型の展示を行っている。 ・企画展示：人権、環境、平和に関するテーマで3か月ごとに、年4回開催している。（令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により年3回開催。） ・啓発ビデオや資料パネルの貸出し。 ○自由都市・堺 平和貢献賞 <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な平和貢献活動を行った団体を国内の有識者、学術機関等から推薦を得、選考委員会の意見を踏まえて、授賞団体を選考する。（2年に1回顕彰） ・受賞団体の代表者による講演会を市内大学と連携し、実施している。 ○国際平和人権基金の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・平和と人権を尊重するまちづくり条例に規定する国際貢献等の活動及び顕彰を通して平和を促進する事業に活用する。 ○平和首長会議、日本非核宣言自治体協議会への加盟 <ul style="list-style-type: none"> ・核兵器廃絶、恒久平和の実現をめざして、国内外の都市が連帯して、平和構築活動を行う。 ○ピースメッセンジャー（堺大空襲 語り部ボランティア） <ul style="list-style-type: none"> ・堺大空襲など戦争体験の語り部としてピースメッセンジャーを募集し、登録した方に、学校などからの依頼に応じて自身の体験談などを語っていただく。
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）	テルウェル西日本株式会社関西支店
10	公民連携・協働事業	市内大学や語り部ボランティアと連携した事業の実施

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定) 平和と人権資料館の展示についての満足度	単位 %	実績		目標	目標	点検年度
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			目標値	95	95	98	98
			実績値	94	98		
当該指標を選定した理由		人権意識の向上を図るためには、より充実した展示を行い、満足度を高めることが重要だと考えるため。					
目標値の設定根拠・算出方法		平和と人権資料館の来館者アンケートで「良かった」、「どちらといえば良かった」と答えた人の割合。令和2年度の目標値が未達のため、令和3年度も令和2年度と同じ目標値としたが、令和3年度の実績値が目標値を上回ったため、終了年度である令和5年度の目標値を97%から98%へ上方修正。					
12	活動指標(成果を上げるための手段) 平和と人権資料館の来館者数	単位 人	実績		目標		
			令和2年度	令和3年度	令和4年度		
			目標値	6,000	6,000	10,000	
			実績値	7,641	8,624		
当該指標を選定した理由		人権意識の向上を図るためには、より多くの方に当館を見学してもらうことが重要だと考えるため。					
目標値の設定根拠・算出方法		令和3年度目標値については、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、令和2年度と同じ目標値とした。令和4年度の来館者数についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるものと考えられるが、令和2年度から令和3年度の実績値の推移に基づき、令和4年度も同様に増えるものと見込み、10,000人を目標値とする。					

令和4年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	平和関連推進事業	事業番号	007-046
-------	----------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
	事業費 (a)	15,075	19,683	16,644	21,041	22,603
13 財源内訳	国支出金	17	1,004			
	府支出金					
	市債					
	その他 (繰入金、利子収入、寄付金)	44		101	54	131
	受益者負担金(使用料、手数料等)					
	一般財源	15,014	18,679	16,543	20,987	22,472
14	人件費 (b)	15,705	18,680	15,974	8,774	10,660
15	年間経費(c)=(a)+(b)	30,780	38,363	32,618	29,815	33,263

事業費の内訳

(単位：千円)

	項目	年度	事業費		うち一般財源	項目	年度	事業費		うち一般財源
			事業費	うち一般財源				事業費	うち一般財源	
16 事業費内訳	会計年度任用職員報酬	R3	決算	9,174	9,174	平和と人権資料館保守点検業務	R3	決算	880	880
		R4	予算	9,224	9,224		R4	予算	880	880
	期末手当 (会計年度任用職員)	R3	決算	1,427	1,427	平和と人権資料館保守管理委託料	R3	決算	1,675	1,675
		R4	予算	1,482	1,482		R4	予算	1,690	1,690
	費用弁償 (通勤費)	R3	決算	383	383	その他備品購入費	R3	決算	282	282
		R4	予算	707	707		R4	予算	300	300
	人材派遣等委託料	R3	決算	5,215	5,215	共益費	R3	決算	699	699
		R4	予算	6,122	6,122		R4	予算	700	700
	印刷製本費	R3	決算	348	348	その他(通信運搬費、消耗品費など)	R3	決算	958	904
		R4	予算	198	198		R4	予算	1,300	1,169

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区分	単位	令和2年度	令和3年度
17	① 平和と人権資料館 来館者数	人	7,641	8,624
	② 上記①にかかる年間経費	千円	28,921	24,835
	③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	3,785	2,880
備考 (算出についての説明等)		平和と人権資料館運営に係る人件費を含めた年間経費で算出。		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 平和と人権資料館における来館者へのアンケートでは、98%が「良かった、どちらかといえば良かった」と回答しており、平和や人権に対する意識が高まったと言える。
令和3年度は、令和2年度に実施した展示物更新業務の完了及び来館者数の増加により、単位当たり経費が減少した。

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19 体験型防空壕の新設など展示内容をリニューアルしたことにより、令和3年度の来館者数や来館者の満足度は前年度を上回ることができ、人権意識の向上に寄与することができている。今後、企画展の内容の充実を図るなど、来館者の人権意識の向上に寄与できるように取り組む。